

逗子消防の沿革

昭和25年7月1日 横須賀市からの分離、独立に伴い、逗子町消防本部及び逗子町消防署を発足し、初代消防長に小平喜市氏が就任した。

それまで配置されていた消防自動車2台とこれに伴う積載器具等をそのまま引き継ぎ、消防業務を開始した。

1 消防本部・消防署所在地

三浦郡逗子町逗子975番地

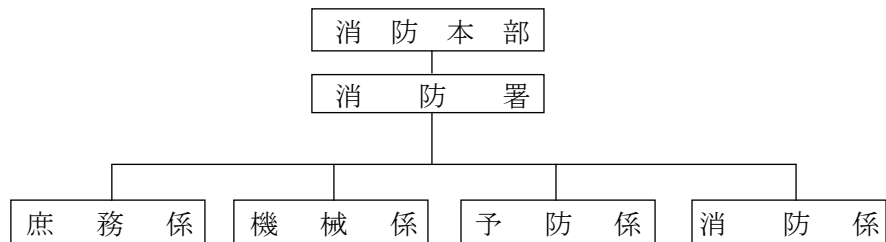
(現在の住居表示：逗子市逗子5丁目4番33号)

2 規 模

敷地面積 490.5平方メートル

建築面積 189.0平方メートル 延面積 255.0平方メートル

3 組 織



4 人 員

消防職員25名

同時に逗子町消防団（消防団員225名）を発足し、初代消防団長に井上肇氏が就任した。

9月15日 消防職員の定数を改正し、26名とした。

◎ NHK、テレビ定期実験放送開始 ◎ 金閣寺焼失 ◎ 1,000円札発行

昭和26年11月24日 第1分団に、消防ポンプ自動車（ニッサン）を、第2分団に消防ポンプ自動車（トヨタ）を配置した。

12月25日 消防署に水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽容量1,500リットル）を増強配置した。

◎ NHK「紅白歌合戦」始まる ◎ 松阪大火

昭和27年6月11日 第6分団及び第8分団に、三輪消防ポンプ自動車（ニッサン）をそれぞれ配置した。

7月1日 消防署の消防ポンプ自動車（トヨタ）の艀装換えを行い、ホースカー2台を積載し

て機動力を強化した。

◎ 国鉄東逗子駅開設 ◎ 十勝沖地震

◎ 京急品川・逗子海岸間に直通海水浴特急の運転を開始

昭和28年2月20日 第7分団に、三輪消防ポンプ自動車（トヨタ）を配置した。

3月24日 消防団員の定数を改正し、190名とした。

4月1日 初代消防団長井上肇氏の退任に伴い、第二代消防団長に矢嶋濱吉氏が就任した。

5月5日 消防署の消防ポンプ自動車（トヨタ）に、小型動力ポンプ（トーハツ、C-2級）を積載し、親子ポンプとして運用した。

6月10日 神奈川県下10市町において、消防相互応援協定を締結した。

7月1日 乗用車（ナッシュ）をもって、夏季期間中における避暑客等を主体に救急業務を開始した。

◎ NHK、東京地区で本放送開始 ◎ 第1回全国統一秋の火災予防運動実施

昭和29年4月15日 市制施行に伴い、名称を逗子市消防本部、逗子市消防署及び逗子市消防団に改めた。

6月1日 第5分団に、三輪消防ポンプ自動車（トヨタ）を配置した。

◎ 50銭以下の小銭廃止

昭和30年3月7日 災害の防御と消防力の強化により、消防庁長官から竿頭綬を授与された。

◎ アルミ1円硬貨の発行 ◎ 第1回文化財防火デー実施

昭和31年3月30日 消防本部に乗用車（プリムス）を配置した。

6月15日 第4分団に、小型動力ポンプ（トーハツ）を配置した。

12月17日 消防署に、放水銃を搭載した水槽付消防ポンプ自動車（ニッサン、A-2級、水槽容量2,000リットル）を配置した。

◎ 中央气象台、気象庁として発足 ◎ 日本、国連加盟

昭和32年3月15日 逗子市火災予防条例を制定した。（昭和32年条例第1号）

9月29日 第3分団に、消防ポンプ自動車（トヨタ、A-2級）を配置した。

◎ 5,000円札、100円硬貨の発行 ◎ ソ連、人工衛星打ち上げに成功

昭和33年1月31日 初代消防長小平喜市氏、病のため逝去された。

2月3日 眞下健次氏が消防長心得に就任した。

3月30日 消防本部に乗用車（デソート）を配置した。

3月31日 消防職員の定数を改正し、28名とした。

7月1日 眞下健次氏が第二代消防長に就任した。

- 12月8日 消防団員の定数を改正し、139名とした。
- ◎ 東京タワー完成 ◎ 国立競技場完成 ◎ 10,000円札の発行
- 昭和34年2月19日 消防署と米陸軍池子弾薬庫基地消防隊間に直通電話を開設し、運用を開始した。
- 10月12日 消防署に、消防用中短波陸上無線局を開局し、移動局を消防ポンプ自動車2台（逗子消防1号、逗子消防2号）に装備し、運用を開始した。
- ◎ メートル法実施 ◎ 伊勢湾台風
- 昭和35年4月1日 第二代消防団長矢嶋濱吉氏の退任に伴い、第三代消防団長に片山文雄氏が就任した。
- 7月2日 消防署の水槽付消防ポンプ自動車（ニッサン、A-2級）の大吸管を軽量吸管に改造し、配置した。
- 7月25日 第9分団に、小型動力ポンプ付三輪消防自動車（B-2級）を配置した。これにより消防団に配置されていた手引ガソリンポンプは、全て廃止した。
- 11月10日 消防本部・消防署庁舎を新築移転し、消防業務を開始した。
- 1 消防本部・消防署所在地
- 逗子市桜山876番地
- （現在の住居表示：逗子市桜山2丁目3番31号）
- 2 規 模
- 敷地面積 1,295.9平方メートル
- 建築面積 276.8平方メートル 延面積 663.6平方メートル
- （鉄筋コンクリート造2階建、一部3階建）
- ◎ 自治省消防庁の発足 ◎ 防火管理者制度の創設 ◎ 第1回防災の日実施
- 昭和36年3月14日 消防職員の定数を改正し、33名とした。
- 4月22日 第4分団に、小型動力ポンプ付三輪消防自動車（B-3級）を配置した。
- 4月23日 消防署に、電話交換機の自動化に伴う火災、救急専用電話として、119番の受信用電話機が設置された。
- 6月28日 集中豪雨による未曾有の水害により、市街地の5分の1が浸水し、災害救助法が適用された。
- ◎ 消防力の基準制定 ◎ ソ連、人間衛星船ヴォストーク1号打ち上げ成功
- ◎ 災害対策基本法の制定 ◎ 東ドイツ、東西ベルリン境界に壁を構築
- 昭和37年2月19日 消防職員の定数を改正し、35名とした。
- 9月1日 逗子市火災予防条例を全部改正した。（昭和37年条例第14号）

- 10月24日 消防署に、大型粉末消火器6本を積載した消防ポンプ自動車（ニッサン ジュニア、A-2級）を増強配置した。
- ◎ 消防吏員の階級準則の制定 ◎ 十勝岳爆発 ◎ 東京都の人口1,000万人を突破
- 昭和38年3月8日 消防署に、日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（トヨタ ランドクルーザー、A-2級）が寄贈され、増強配置した。
- 7月15日 逗子市消防救急隊設置規則の制定（昭和38年規則第11号）により、消防署に救急自動車（ニッサン キャブオール、2ベッド式）を配置し、救急業務を開始した。
- ◎ 黒部川第4発電所完成 ◎ 日米間初の宇宙中継
- 昭和39年3月24日 消防職員の定数を改正し、37名とした。
- 4月15日 第三代消防団長片山文雄氏の退任に伴い、第四代消防団長に堀尾充氏が就任した。
- ◎ 第18回オリンピック、東京で開催 ◎ 国鉄、東海道新幹線開業
- ◎ 湘南有料道路、鎌倉・逗子間開通 ◎ 消防水利の基準の制定
- 昭和40年10月25日 消防署に、小型動力ポンプ付積載車（三菱 ミニカ、B-3級）を増強配置した。
- ◎ 消防訓練礼式の基準の制定 ◎ 初の商業原子力発電始まる
- 昭和41年4月4日 消防救助隊員養成のため、8名の消防隊員を横浜市消防局へ派遣し、同年5月に救助隊を発足させた。
- ◎ 三沢市大火 ◎ 全日空機東京湾に墜落 ◎ ビートルズ東京公演
- 昭和42年9月13日 消防署に、消防用超短波携帯無線機4基を配置した。
- ◎ 消防吏員服制準則制定 ◎ 公害対策基本法公布 ◎ ヨーロッパ共同体(EC)発足
- ◎ 東南アジア諸国連合(ASEAN)結成
- 昭和43年3月21日 消防職員の定数を改正し、50名とした。
- 5月17日 小坪分署開庁に伴い、消防士長以下12名、消防ポンプ自動車1台を配置し、消防業務を開始した。
- 1 小坪分署所在地
逗子市新宿4丁目1,576番地の4
- 2 規 模
敷地面積 339.7平方メートル
建築面積 130.4平方メートル 延面積 187.1平方メートル
(鉄筋コンクリート及びブロック造2階建)
- 6月5日 消防署と鎌倉消防署間に直通電話を開設し、運用を開始した。

- ◎ 十勝沖地震 ◎ 郵便番号制度を実施 ◎ 小笠原諸島、日本復帰
- ◎ 国鉄逗子駅（鉄筋3階建）改築

昭和44年1月27日 消防署に、消防用超短波無線基地局を設置し、運用を開始した。

3月25日 消防署に、神奈川県防災総合無線局を設置し、運用を開始した。

4月1日 消防副士長制度を施行した。

9月20日 消防署に、救急自動車（トヨタ FS55V）を増強配置した。

- ◎ 磐梯熱海温泉磐光ホテル火災 ◎ 東名高速道路全面開通
- ◎ 米宇宙船アポロ11号、月面着陸

昭和45年2月28日 消防長の階級を消防監に改正し、3月1日から施行した。

- ◎ 逗葉新道開通 ◎ 日本万国博覧会の開催 ◎ 日航機よど号のハイジャック

昭和46年8月17日 小坪分署に、消防ポンプ自動車（ニッサン FHN60、A-2級）を増強配置した。

10月15日 自治省消防庁通達（昭和45年6月10日付）の「救急自動車に備えるサイレンの音色の変更について」により、ピーポーサイレンを全ての救急自動車に装備した。

- ◎ 沖縄返還協定調印 ◎ 逗子市危険物安全協会設立

昭和47年1月22日 浜田稔博士を招き、当市地震対策に基づく避難地の現地調査を行った。（当市防災会議の専門委員として1年間委嘱）

3月22日 消防職員の定数を改正し、54名とした。

7月19日 消防本部に、災害現場指揮のため、指令車（ニッサン セドリック）を増強配置した。

9月25日 消防職員の定数を改正し、60名とした。

9月27日 消防署に、日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（ニッサン FH60、A-2級）が寄贈され、増強配置した。

11月19日 消防署に、空気呼吸器の充填用として圧縮空気製造施設を設置した。

- ◎ 第1回全国消防救助技術大会の開催 ◎ 第11回冬季オリンピック、札幌で開催
- ◎ 千日デパートビル火災 ◎ 上野公園、パンダ初公開

昭和48年3月9日 消防署に、花崎産業株式会社から救急自動車（トヨタ RH-11G、キャブオーバー型）が寄贈され、増強配置した。

10月1日 消防署に、都市化の進展や中高層建築物の急激な増加に伴い、中高層建築物災害に対処するため、はしご付消防ポンプ自動車（三菱、24メートル級）を増強配置した。

12月11日 消防職員の定数を改正し、63名とした。

◎ 熊本市大洋デパート火災 ◎ 石油ショック ◎ 関門橋の開通

昭和49年1月1日 消防本部事務機構を3係（庶務・企画・予防）に改めた。

4月1日 小坪分署受持区域の救急事故の増加に伴い、消防署から小坪分署に救急自動車（トヨタ RH11G）を配置替えし、救急業務を開始した。

◎ 伊豆半島沖地震

昭和50年1月15日 消防署に、消防・救急一斉指令装置（OKI電気 PD1007C型）を設置し、運用を開始した。

◎ 沖縄国際海洋博覧会の開催 ◎ 山陽新幹線、岡山・博多間開業

◎ 日本女子登山隊、女性初のエベレスト登頂に成功

昭和51年3月19日 消防署に、日本自動車工業会から救急自動車（トヨタ H-RH19V）が寄贈され、増強配置した。

10月29日 消防本部に、菊池地所株式会社及び小坪マリーナーから広報査察車（ニッサン）が寄贈され、増強配置した。

◎ 酒田市火災 ◎ 宅急便が登場

昭和53年1月1日 第二代消防長眞下健次氏の退任に伴い、第三代消防長に山口孫吉氏が就任した。

消防本部の機構改革を実施し、消防総務課及び消防予防課の2課を置き、消防署に課長級の当直司令制度を導入した。

消防署に、救急業務の円滑を図るため救急医療システムを導入し、運用を開始した。

1月14日 市内の谷戸地を重点に、街頭消火器（粉末）163本を設置した。

3月30日 消防職員の定数を改正し、71名とした。

12月22日 消防署に、消防ポンプ自動車（三菱 FK115D、A-2級）を増強配置した。

◎ 伊豆大島近海地震 ◎ 宮城県沖地震 ◎ 新東京国際空港が開港

昭和54年3月25日 消防署と東京ガス藤沢営業所間に直通電話を開設し、運用を開始した。

4月1日 分署長（課長級）制度を施行した。

北分署開庁に伴い、分署長以下14名、消防ポンプ自動車2台、救急自動車1台を配置し、消防業務を開始した。

1 北分署所在地

逗子市池子1丁目1番1号

2 規模

敷地面積 931.3平方メートル

建築面積 258.4平方メートル 延面積 312.4平方メートル

(鉄筋コンクリート造、一部2階建)

11月1日 毎月1日を「防災の足の日」と定め、全職員の徒歩出勤を実施した。

12月8日 市民を対象とした、火災・地震等災害に対する意識向上を図るため、第1回逗子市消防総合展を実施した。

◎ 東名高速日本坂トンネル内車両火災 ◎ 地震防災対策強化地域の指定

昭和55年12月1日 逗子消防30年を記念し、「逗子消防三十年のあゆみ」を発刊した。

◎ 静岡駅前ゴールデン街ガス爆発火災 ◎ 栃木県川治プリンスホテル火災

昭和56年3月26日 消防職員の定数を改正し、76名とした。

6月11日 消防署と東京電力横須賀営業所間に直通電話を開設し、運用を開始した。

◎ 宮城県沖地震 ◎ 「適」マーク制度の全国一斉実施(旅館・ホテル)

昭和57年4月7日 消防署と日本道路公団川崎交通管制センター間に、非常用及び業務用直通電話を開設し、運用を開始した。

12月8日 消防署に、救助工作車(三菱 K-FK116D)を増強配置した。

◎ 第1回救急の日実施 ◎ ホテルニュージャパン火災 ◎ 日航機羽田沖に墜落

◎ 横浜横須賀道路逗子インターチェンジ完成、開通 ◎ 500円硬貨発行

昭和58年3月31日 消防署に、日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車(三菱 K-FK116F)が寄贈され、北分署に増強配置した。

4月1日 第四代消防団長堀尾充氏の退任に伴い、第五代消防団長に川原政雄氏が就任した。

◎ 「適」マーク制度の全国一斉実施(劇場・百貨店) ◎ 日本海中部地震

◎ 東京ディズニーランド開園

昭和61年4月1日 消防本部に、事務処理の効率化及び簡素化を図るため、パーソナルコンピュータを導入し、運用を開始した。

消防署に、神奈川県防災行政無線ファクシミリを導入し、運用を開始した。

7月1日 小坪分署・第7分団庁舎を、新築(併設)移転した。

1 小坪分署・第7分団所在地

逗子市小坪5丁目449番地

(現在の住居表示:逗子市小坪5丁目21番4号)

2 規模

敷地面積 769.9平方メートル

建築面積 413.0平方メートル 延面積 388.1平方メートル

(鉄筋コンクリート造、平屋建)

7月24日 消防本部に、財団法人日本消防協会から指令広報車(ニッサン)が寄贈され、配置した。

◎ 静岡県東伊豆町熱川温泉大東館火災 ◎ 伊豆大島三原山大噴火

昭和62年4月1日 第五代消防団長川原政雄氏の退任に伴い、第六代消防団長に平井三郎氏が就任した。

6月27日 消防署に、逗子市商工会から小型貨物自動車(トヨタ J-RH34V)が寄贈され、増強配置した。

◎ 特別養護老人ホーム松寿園火災 ◎ 第1回119番の日 ◎ 旧国鉄、分割民営化

昭和63年3月4日 消防署に、衛星通信を利用した119番回線を開設し、運用を開始した。

3月31日 消防職員の定数を改正し、78名とした。

4月1日 第三代消防長山口孫吉氏の退任に伴い、第四代消防長に上村辰蔵氏が就任した。

◎ 瀬戸大橋開通 ◎ 青函トンネル開通 ◎ 東京ドームオープン

平成元年2月18日 消防職員の定数を改正し、80名とした。

3月6日 災害の防御と消防力の強化により、消防庁長官から消防本部及び消防団に対し表彰旗が授与された。

4月1日 第四代消防長上村辰蔵氏の退任に伴い、第五代消防長に菊池和文氏が就任した。

◎ 「平成」と改元 ◎ 東西ドイツ、ベルリンの壁崩壊

◎ 消費税3パーセントがスタート

平成2年7月1日 消防本部・消防署庁舎建替えに伴い、逗子市民体育館脇の仮設庁舎へ移転し、業務を開始した。

◎ 大阪、国際花と緑の博覧会開幕

平成3年3月26日 消防職員の定数を改正し、82名とした。

◎ 救急救命士法の制定 ◎ 雲仙普賢岳で大火砕流発生 ◎ 新東京都庁落成

平成4年3月19日 消防職員の定数を改正し、83名とした。

4月1日 消防本部・消防署庁舎が完成し、業務を開始した。

1 消防本部・消防署所在地

逗子市桜山2丁目3番31号

2 規模

敷地面積 1,300.3平方メートル

建築面積 804.1平方メートル 延面積 2,522.9平方メートル

(鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階建)

消防署に、消防緊急情報システムⅡ型(OKI電気 PD9000型)を導入、消防用超短波無線基地局(救急波)を設置し、運用を開始した。

7月29日 消防本部に、小型連絡車(スズキ V-CL22V)を増強配置した。

◎ 国家公務員週休2日制実施 ◎ 山形新幹線、東京、山形間開業

平成5年1月30日 消防署に、防災資機材運搬車(トヨタ U-BU60改)を配置した。

2月25日 消防署に、高規格救急自動車(トヨタ T-RZH133改、2B型)を配置した。

3月22日 消防職員の定数を改正し、88名とした。

10月13日 消防署に、はしご付消防自動車(日野 U-PR2FNA改、30m級)を配置した。

12月1日 救急業務の高度化を図るため、救急救命士と高規格救急車による運用を開始した。

◎ 東京湾レインボーブリッジ開通 ◎ 釧路沖地震 ◎ 北海道南西沖地震

◎ 東海道はるか沖地震 ◎ Jリーグ開幕

平成6年4月1日 第五代消防長菊池和文氏の退任に伴い、第六代消防長に佐々木顯氏が就任した。

◎ 北海道東方沖地震 ◎ 三陸はるか沖地震 ◎ 製造物責任(PL)法制定

◎ 関西国際空港開港 ◎ 松本サリン事件

平成7年1月18日 阪神・淡路大震災に救助隊を応援派遣した。

7月27日 消防本部に、財団法人日本消防協会から指令広報車(ニッサン R-VFY10改)が寄贈され、配置した。

8月21日 消防署に、社団法人日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車(ニッサン U-CM87EE改、A-1級)が寄贈され、北分署に配置した。

11月25日 小坪分署に、高規格救急自動車(トヨタ GB-UZH132改、2B型)を配置した。

◎ 阪神・淡路大震災 ◎ 緊急消防援助隊の創設 ◎ 地下鉄サリン事件

平成8年4月1日 第六代消防長佐々木顯氏の退任に伴い、第七代消防長に佐原正夫氏が就任した。
消防署の組織改正を行い、警備第一課及び警備第二課を置き、課制を導入した。

10月1日 逗子市消防本部消防職員委員会を発足した。

◎ 病原性大腸菌O-157集団食中毒各地で発生 ◎ 北海道豊浜トンネル岩盤崩落事故

平成9年4月1日 第七代消防長佐原正夫氏の退任に伴い、第八代消防長に金野武司氏が就任した。

◎ 北陸新幹線、東京、長野間開通 ◎ 香港中国に返還

◎ 消費税5パーセントに引き上げ

- 平成10年2月4日 消防署に、Ⅱ型救助工作車（ニッサン KC-LK211EN改）を配置した。
- 4月1日 第八代消防長金野武司氏の退任に伴い、第九代消防長に山田清氏が就任した。
- ◎ 郵便番号7桁制実施 ◎ 和歌山集団毒物中毒事件
- 平成11年3月31日 消防署に、消防団緊急伝達システムを導入し、第4分団に子局を設置して運用を開始した。
- 11月9日 北分署に、高規格救急自動車（トヨタ GE-VCH32S、2B型）を配置した。
- ◎ 神奈川県山北町玄倉川水難事故 ◎ 茨城県ウラン加工施設臨界事故
- ◎ 初の脳死臓器移植実施
- 平成13年2月28日 第9分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。
- ◎ 歌舞伎町ビル火災 ◎ 米国、同時多発テロ事件
- 平成14年4月1日 第九代消防長山田清氏の退任に伴い、第十代消防長に盛田一郎氏が就任した。
- ◎ 日韓共催サッカーW杯 ◎ ノーベル賞日本人ダブル受賞
- 平成15年2月1日 ホームページを開設した。
- 4月1日 第六代消防団長平井三郎氏の退任に伴い、第七代消防団長に安田昭治氏が就任した。
- ◎ 韓国大邱市地下鉄火災 ◎ ごみ固形化燃料(RDF)発電所火災
- ◎ 十勝沖地震で製油所タンク火災 ◎ 宮城県北部地震
- 平成16年1月20日 第5分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。
- 3月10日 消防署に、災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（三菱 KK-FK61HGY改）を配置した。
- 11月1日 第8分団庁舎の新築移転に伴い、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。
- ◎ 新潟県中越地震 ◎ スマトラ沖大地震・インド洋大津波
- 平成17年4月1日 第七代消防団長安田昭治氏の退任に伴い、第八代消防団長に清水計宏氏が就任した。
- ◎ 兵庫県尼崎市列車脱線事故 ◎ ハリケーン“カトリーナ”アメリカ南東部襲撃
- 平成18年3月6日 第1分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。
- 4月1日 第十代消防長盛田一郎氏の退任に伴い、第十一代消防長に清水幸一氏が就任した。
- ◎ 長崎県大村市認知症高齢者グループホーム火災
- ◎ 北朝鮮弾道ミサイル発射
- 平成19年4月1日 逗子市消防吏員階級等に関する規則を改正し、消防長の階級を消防司令長とした。

- ◎ 能登半島地震 ◎ 新潟県中越沖地震 ◎ 郵政民営化

平成20年4月1日 第八代消防団長清水計宏氏の退任に伴い、第九代消防団長に柳下征守氏が就任した。

 - ◎ 中国四川大地震 ◎ 岩手・宮城内陸地震
 - ◎ 大阪市個室ビデオ店火災 ◎ 綾瀬市知的障害者施設火災

平成21年3月16日 第3分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

4月1日 第十一代消防長清水幸一氏の退任に伴い、第十二代消防長に吉田純一氏が就任した。

 - ◎ 新型インフルエンザ流行 ◎ 裁判員制度開始
 - ◎ 韓国射撃場火災 ◎ 群馬県渋川市老人ホーム火災

平成22年3月12日 第6分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

4月1日 第十二代消防長吉田純一氏の退任に伴い、第十三代消防長に福地昭三氏が就任した。

第九代消防団長柳下征守氏の退任に伴い、第十代消防団長に高崎昭氏が就任した。

12月13日 第7分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

 - ◎ 家畜伝染病口蹄疫流行（宮崎県） ◎ 小惑星探査機「はやぶさ」帰還
 - ◎ ハイチ地震

平成23年3月11日 東日本大震災の被災地（宮城県仙台市）に、緊急消防援助隊神奈川県隊として消火部隊を派遣した。

・第1次～第3次派遣隊、1隊5名、延べ15名、3月11日から3月20日まで

12月26日 第2分団に、消防団緊急伝達システム子局を設置して運用を開始した。

 - ◎ 東日本大震災 ◎ 東日本大震災の津波による放射能事故
 - ◎ 地上アナログテレビ放送終了

平成24年5月29日 消防団連絡体制強化のため、各消防団車両等にデジタル簡易無線機を整備した。

 - ◎ 広島県福山市ホテル「プリンス」火災 ◎ 東京スカイツリー開業
 - ◎ レスリング吉田沙保里国民栄誉賞受賞 ◎ 笹子トンネル天井板落下事故

平成25年12月3日 携帯・IP電話発信位置情報通知システムを設置して運用を開始した。

 - ◎ 富士山世界文化遺産登録 ◎ 台風第26号伊豆大島土石流
 - ◎ 長崎県グループホーム火災 ◎ 京都府福知山花火大会火災
 - ◎ 福岡県福岡市整形外科火災

平成26年1月20日 財団法人日本消防協会から、防災活動車（ダイハツ EBD-S331V）が寄贈され、本団に配置した。

4月1日 第十代消防団長高崎昭氏の退任に伴い、第十一代消防団長に平野佳一が就任した。

- ◎ 消費税 8 パーセントに引き上げ ◎ 表示制度全国一斉実施（旅館・ホテル）
- ◎ 広島土砂災害 ◎ 御嶽山噴火

平成27年 3 月 23 日 北分署に圧縮空気泡消火装置（CAFS）付消防ポンプ自動車（日野TKG-XZU640M）を配置した。

- ◎ 関東・東北豪雨 鬼怒川決壊 ◎ マイナンバー社会保障・税番号制度開始
- ◎ 池子米軍家族住宅地区内約40ヘクタール共同使用（池子の森自然公園）
- ◎ 北陸新幹線（長野～金沢）開業

平成28年 3 月 7 日 消防救急デジタル無線を配備し、運用を開始した。

4 月 1 日 第十三代消防長福地昭三氏の退任に伴い、第十四代消防長に金井忠が就任した。

7 月 1 日 第十四代消防長金井忠の退任に伴い、第十五代消防長に草柳敦が就任した。

- ◎ 熊本地震 ◎ 北海道新幹線開業

（注）◎印は、当該年の主な出来事

